

短歌

短歌の世界／短歌十首

俵万智

P.52~59



- 短歌のリズムや表現方法などの特徴を理解して、作品の内容を捉える。
- 情景や心情を表す語句に注意して、短歌の世界を読み味わう。

語句

■ 語句の意味を辞書で調べよう。

悼む

〈用例〉 指導者の死を悼む。

教 52 ページ 2 行め

「悼む」には「痛む」や「傷む」という同訓異字があるね。意味の違いに気を付けよう。



■ 語句の意味をもっと調べてみよう。

磨く

〈用例〉 一人前の職人になるため技術を磨く。

教 52 ページ 9 行め

おごり

〈用例〉 おごりを極める者はやがて滅びる。

教 56 ページ 2 行め

不来方

〈用例〉 不来方を旅する。

教 57 ページ 2 行め

踏みしだく

〈用例〉 雑草を踏みしだく。

教 57 ページ 5 行め

■ 短文を作ろう。

心地よく

〈意味〉 気持ちがい状態。

教 53 ページ 1 行め

# 読解

## ステップ1 内容を整理しよう

1 短歌についてまとめます。〔 〕にあてはまることばを教科書から抜き出そう。

① 〔 〕年以上前からの〔 〕  
〔 〕で作られてきた詩。

③ 〔 〕と、五音七音の  
④ 〔 〕があることが特徴。

・ 読者が〔 〕  
⑤ 〔 〕をはたらかせて読むという

楽しみがある。



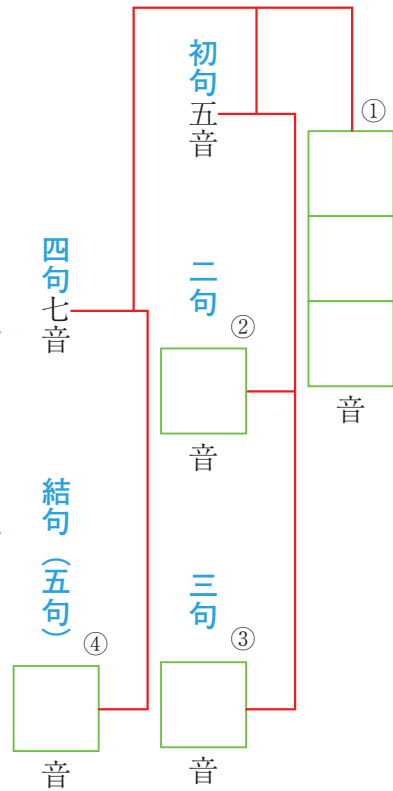
「万葉集」を知っているかな。奈良時代の終わり頃につ  
くられた、日本最古の歌集だよ。

春過ぎて／夏来たるらし／白妙の

衣干したり／天の香具山

短歌のリズムが、昔から変わらないことがよくわかるね。

2 短歌の表現形式について、教55ページを参考にして、①～⑦にあてはまる漢数字やことばを書こう。(①～⑤は音の字数で書こう。)



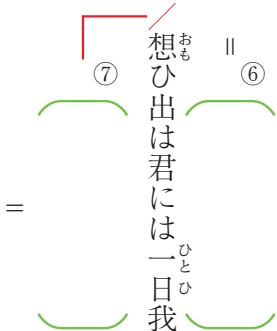
・ 定型より多い

例 その子二十櫛にながるる黒髪の……

六音 (定型は五音)

・ 定型より少ない

観覧車回れよ回れ／想ひ出は君には一日我には一生



・ ことばの意味やつながりから、切れめとなるところ。

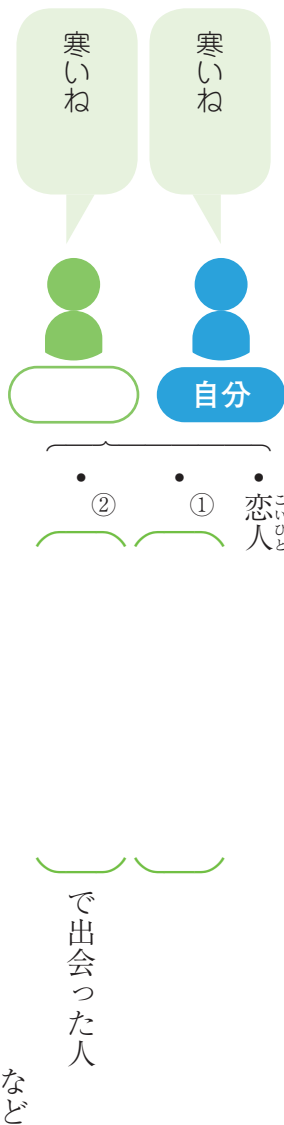
・ どの句で切れるかによって、「初句切れ」「二句切れ」「三句切れ」「四句切れ」「句切れなし」の区別がある。

## ステップ2 内容を読み取る

### 【短歌の世界】（教52ページ初め〜54ページ終わり）

1 「新聞や雑誌に、短歌の投稿欄がある」（教52ページ4・5行め）ことから、筆者は短歌についてどう考えていますか。教科書のことばを使って書こう。

2 『寒いね』と……』の短歌で、やりとりの相手として想像されるのはどんな人ですか。（ ）にあてはまることばを教科書から抜き出そう。



3 「観覧車……」の短歌について、次の問いに答えよう。

(1) 恋の気持ちをより強く感じているのは「君」と「我」のどちらですか。

(2) 「回れよ回れ」には、「我」のどのような思いがこめられていると思いますか。

## 読み取りのヒント

### 【短歌の世界】

1 短歌は千三百年以上前から今まで、途絶えることなく続いてきて、しかも、誰でも気軽に触れることができる文化なんだよ。

2 作者は「寒いねと声をかけ合う人がいることで心が温かくなる」ことに絞って詠んでいるので、読者がさまざまな状況を想像することができるとね。

3 (1) 「君には一日」「我には一生」の対比から考えよう。

(2) 「我」（作者）の気持ちになって自由に想像を広げてみよう。

【短歌十首】（教56ページ初め〜57ページ終わり）

1 「くれなゐの……」の短歌（教56ページ1首め）は、「薔薇の芽」のどんな様子を詠んでいるでしょうか。適切なものを次の中から選ぼう。

- ア とげとげしさ
- イ みずみずしさ
- ウ 華やかさ
- エ 頼りなさ

2 「みちのくの……」の短歌（教56ページ3首め）について、母に一目会いたいと急いでいる作者の気持ちがどんな表現から感じられますか。□□にあてはまることをば短歌の中から八字で抜き出そう。

●

という繰り返し

3 「草わかば……」の短歌（教56ページ4首め）について、次の問いに答えよう。

- (1) この短歌は何句切れですか。 [ ] 句切れ
- (2) この短歌からは色の対比が読み取れます。それぞれ漢字一字で書こう。

● わかばの ① [ ] と色鉛筆の削り粉の ② [ ]

4 「列車にて……」の短歌（教57ページ4首め）で、「向日葵」は何にたとえられていますか。短歌の中から抜き出そう。

5 「細胞の……」の短歌（教57ページ6首め）で字余りとなっているのは何句ですか。また、その句は何音ですか。 [ ] 句 [ ] 音

読み取りのヒント

【短歌十首】

1 「針やはらかに」春雨のふる」などのことからイメージしよう。

2 「見ん」は「見たい」という意味だよ。「みちのく」（東北地方）で病気に倒れたお母さんのもとへ、急いで駆けつける道中の気持ちを詠んだ短歌だよ。

3 (1) 内容が大きく変わっているところが切れめだよ。

(2) 対照的な二つの色によって、鮮やかな印象が生まれるね。

4 比喩であることがわかる形が使われているよ。1年のとき、比喩について学習したことを思い出そう。

5 この短歌の作者である永田紅は生化学者でもあるよ。夜、顕微鏡をのぞいて実験していたときのことを詠んだんだね。



短歌

1 短歌の歴史

古い時代の短歌は「和歌」といふよ。



奈良時代末期

「万葉集」

…日本最古の歌集。

平安時代前期

「古今和歌集」

鎌倉時代初期

「新古今和歌集」

「三大和歌集」

…天皇の命令でつくられた歌集（勅撰集）

鎌倉時代前期

「小倉百人一首」

…勅撰集から優れた和歌百首を集めたもの。

▽和歌は庶民も作っていたけれど和歌文化の中心は貴族。

鎌倉時代後期

連歌（短歌の上の句「五七五」と下の句

「七七」を別の人で作る）が流行。

▽貴族の時代から武士・僧侶の時代になり、和歌（短歌）は衰える。

江戸時代

「万葉集」が見直されるなど、和歌への

関心が再び高まる。

明治時代

伝統的な和歌からの革新、短歌の近代化

が進む。

2

近代の主要な歌人

・佐佐木信綱…『思草』『常盤木』など

・ゆく秋の大和の国の薬師寺の塔の上なる一ひらの雲

・正岡子規…『竹の里歌』など

いちはずの花咲きいでて我目には今年ばかりの春行かんとす

(いちはず…花の名前)

・与謝野晶子…『みだれ髪』『舞姫』など

金色のちひさき鳥のかたちして銀杏ちるなり夕日の岡に

・斎藤茂吉…『赤光』『あらたま』など

最上川逆白波のたつまでにふぶくゆふべとなりけるかも

(ゆふべ…夕べ)

・前田夕暮…『収穫』『陰影』など

向日葵は金の油を身にあげてゆらりと高し日のちひささよ

・北原白秋…『桐の花』『白南風』など

石崖に子ども七人腰かけて河豚を釣り居り夕焼小焼

・若山牧水…『海の声』『別離』など

うすべに葉はいちはやく萌えいでて咲かむとすなり山桜花

・石川啄木…『あこがれ』『一握の砂』など

たはむれに母を背負ひて (たはむれ…戯れ)

そのあまり軽きに泣きて

三歩あゆまず

教科書に載っている作品と合わせて音読してみよう。

